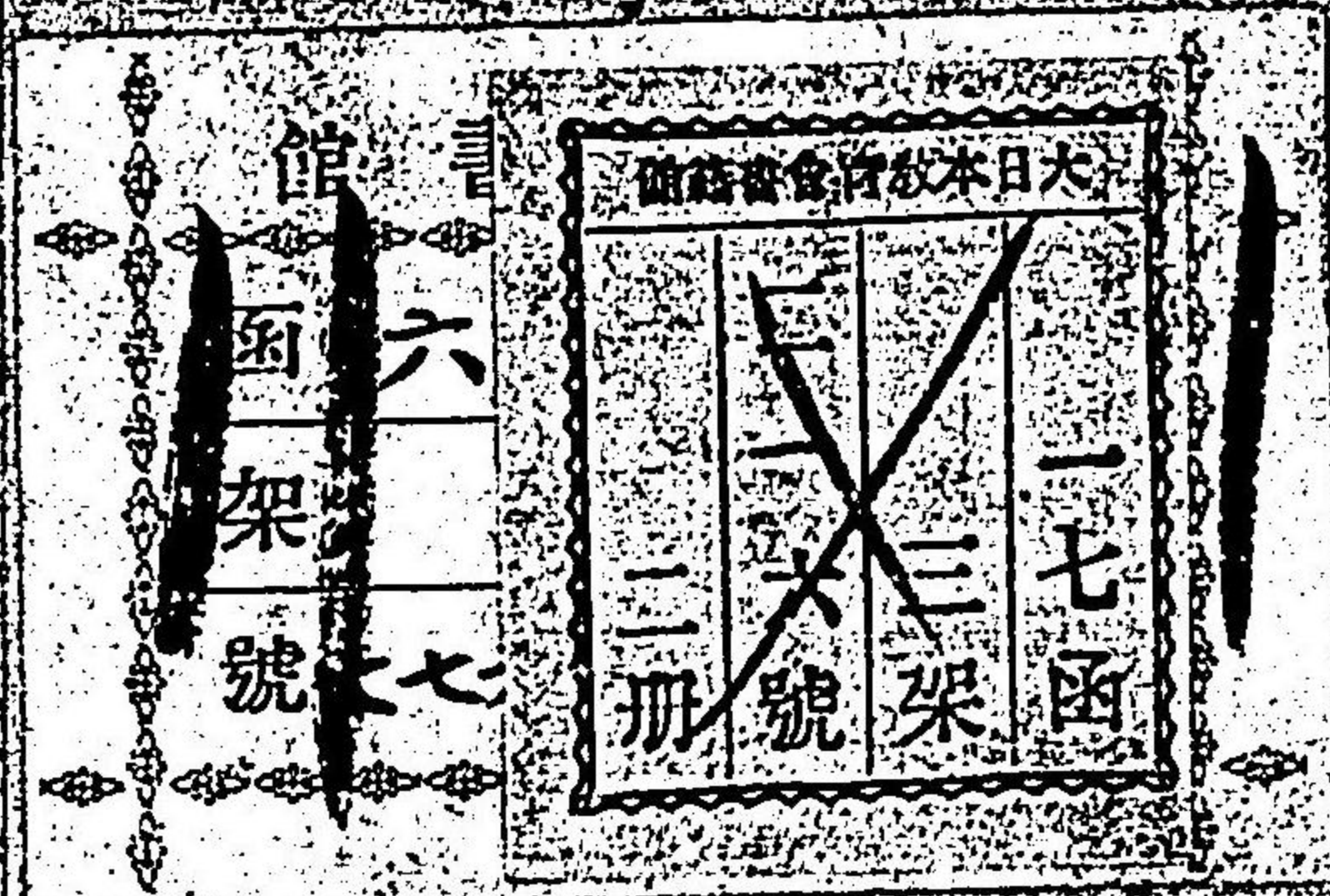


說教良材集
上

特35

844



014316-001-8

特35-844

說教良材集

児玉 寛淵 / 著

1冊(上39丁)

M10

ABB-0660

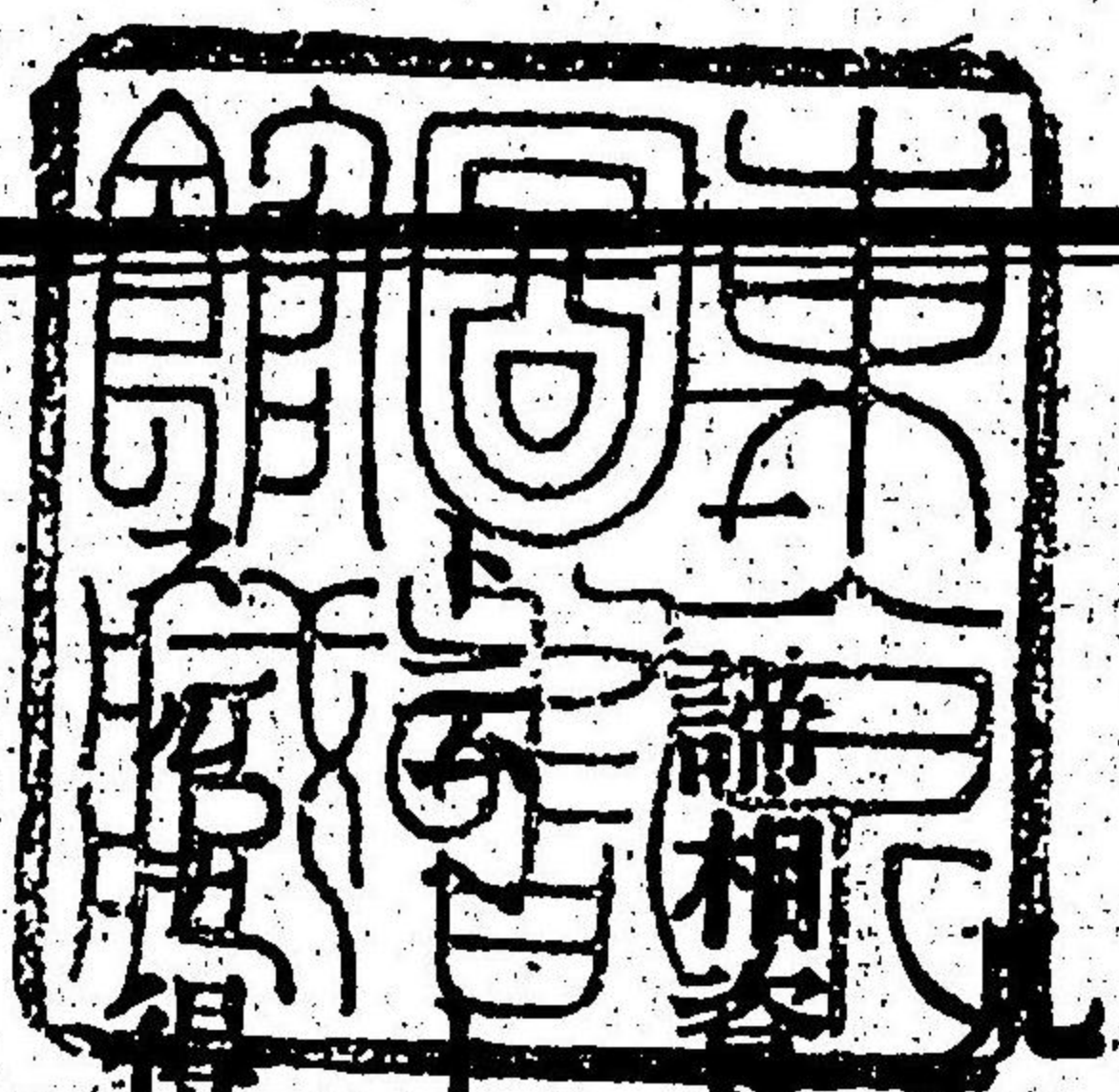


兒玉寬淵著

說教良枝集

明治十年二月刊行

特35
844



例

シテ死生ノ教義以テ成ル政教本ニナリ
モ互ニ相護益スルニ於テ道義正ニ通暢
得ル之ニ依テ能ク宗教ヲ信從スル者ハ必
ス能政道ヲ遵守スヘシ今此編ニ着ス所ハ只其世
教ノ部ニ在テ譬喩因縁ヲ類聚シテ以テ説諭ノ章
程ヲ助ント欲ス請フ教場ニ登ルノ日其類ニ應シ
テ宗意ヲ交説スル事猶シ詩語ト詩韻トヲ合取シ
テ以テ詩ノ一篇ヲ成スルカ如シ觀者此書ヲ以テ

教義既ニ充實スト誤認スル勿レ

一此書ノ原志世人或ハ佛法ヲタニ信スレハ世教ハ
カモアラハアレナト心得惑ヘル者ノ爲ニ世諦ノ
能一日モ守スンハアルベカラサル所以ヲ諭スチ
以先務トス依之編中或日本書記等ニ依テ神明ノ
行跡ヲ舉說スルカ如キ彼造化天降等ノ道義ヲ論
判スルヲ要セス只專ラ彼事緣ヲ割取シ以庶民ヲ
シテ今ノ朝旨ヲ遵守セシムルニ至テ止ナン而已
一說教ハ觀機ヲ先トス時ニ隨ヒ處ニ應シテ聽者ノ

賢愚及進未進ヲ善ク觀察シテ而テ後勸誘ノ方術
布教ノ章程ヲ設クル事豈忽ニスヘケンヤ今此編
ニ著ス所ハ多クハ遐陬未開ノ頑夫遠境半開ノ庶
民ヲ諭スニ位シテ敢テ文詞ノ巧拙ヲ省ミス四方
ノ君子夫之ヲ恕セヨ

一僕曾テ壬申秋教則三條ヲ辨釋スルニ私ニ三十題
ヲ施設シテ知新錄三卷ヲ著ス今茲二三ノ同志予
ニ勸メテ此錄ヲ上梓セン事ヲ議ル予云不爾今天
下ノ有志皆既ニ熟讀ス焉ソ此鄙稿ヲ公ニスルヲ

煩カンヤ然ニ此十七題ノ如キハ諸君子ノ論述ス
ル所其義旨詳細ナリト雖モ而モ之ヲ教導ニ及ホ
シテ庶民ニ親ク其實地ヲ踐マシムルニ至テハ未
全ク題意ノ蘊奧ヲ發シ盡サ、ル所アルニ似タリ
是ヲ以テ今不敏ヲ顧ミス聊管見ヲ以テ題意ノ所
在ヲ窺ヒ之ヲ筆點ニ備テ以テ教導初步ノ蒙ニ便
セント欲スルノミ

標目

上卷

- 一 皇國文明ノ由來并朝鮮人ノ情態 二丁
- 一 二人ノ旅客鬼堂ニ宿シテ相争フ事 六、
- 一 今上皇帝五箇ノ御誓文ノ事 八、
- 一 朝議確定シテ不拔ノ憲法ヲ立ル事 九、
- 一 障子ヲ削テ嫁ヲ諭ス大工ノ話シ 十一、
- 一 英國版圖内ノ工業昌盛ノ事 十四、

- 一 蒸氣縮密機器ヲ製スル瓦德ノ事 十五、
- 一 蒸氣行動機器ヲ製スル士提反孫ノ事 十五、
- 一 御詠并御親翰 十七、
- 一 竹田機候ノ喩 十八、
- 一 贖金等ノ律法神代ヨリ備ハル事 十九、
- 一 福岡縣百姓一揆派出説教ノ話シ 廿一、
- 一 父ハ呵リ母ハ抱テ諭セルヲ之歌 廿一、
- 一 天稚彦反矢ニ中テ立ロニ死スル事 廿二、
- 一 初疑公布中信朝旨後仰天恩之辨 廿六、

- 一 僧侶ノ苗字并乞鉢廢止之朝旨 廿六、
- 一 金札發行ヲ忌テ青錢ヲ貯シ事 三十、
- 一 物價騰貴并國產輸出ノ解禁ヲ論ス 三十二、
- 一 上海及倫敦等ノ開店ノ利益 三十三、
- 一 一生八月常月夜不貸不借ノ願ノ事 三十四、
- 一 時代流行モ亦天理變更ノ辨 三十五、
- 一 忠孝ノ道體漢和同異ノ論 三十六、
- 一 大神天ノ石窟ニ幽リ玉フ事 三十八、
- 一 伊弉册尊蛭子宮ヲ産ミ玉フ由來 四十、

下卷

- 一 權利義務ニ過不及ノ失アル事 二丁
- 一 權利ノ中道并馬ニ義務ナキ論シ 三、
- 一 越前ヨリ十七股ノ白鹿ヲ獻スル事 四、
- 一 金ノナル樹并立花ノ喩 五、
- 一 萬國交際ヲ論スルニ三由ヲ述ス 八、
- 一 先帝ノ攘夷ト今上ノ和親ト一致ニ歸ス九、
- 一 一定紋付ノ提燈ノ喩 十、
- 一 牽カレテハ惡キ道ニモノ歌 十一、

東書

說教良材集上

文明開化

兒玉寬淵著

野蠻未開ノ風俗ニ對シテ文明開化ノ名稱ヲ立ツ其
意終ニ野蠻ノ民ヲシテ文明ノ域ニ進歩セシメント
欲スルニ在リ若其文明ノ道體ヲ論スレハ至大至廣
ニシテ窮極アルヘカラスソノ文ノ文タルヤ終ニ天
地ト位ヲ同フシソノ明ノ明タルヤ日月ノ下土ヲ照
臨シテ毛髮ノ冥暗ナク黑白邪正分明ナルカ如シ然

ルニ皇國ノ如キハ御一新前ヲ名テ半開ノ國トシ御
一新後ヲ名テ文明國トスソノ進歩ノ功ヲ論スレハ
神國ノ氣象固有ノ靈德ヲ以テ開化文明ノ日ヲ逐テ
隆盛ナル事蒲蘆ノ長スルカ如ク日ノ昇ルカ如クソ
ノ行政上ニ在テハステニ西洋諸國ノ右ニ出ント欲
スルノ勢アリト雖トモ偏境遐陬ノ愚民輦下ニ遠キ
人ミノ陋習天然ノ正理ヲ知ラスシテ習慣甚去カタ
クシテ動モスレハ公布ヲ疑ヒ新制ニ戾テ文明ノ域
ニ進歩スル能ハス夫我國文明ノ由來スル事既ニ久

シ農工商ノ業共ニ行レ技藝文學經史ヲ講習シ鑛山
ノ道及産物製物ノ奇工ヲ盡シ五倫ノ道ヲ明カニシ
敬神祭典ノ禮義ヲ重ンシテ外形ノ文章氣志ノ高明
更ニ之ニ加フヘキ無キカ如シト雖モ習慣ノ久キ人
情ニ沿襲シテ陋弊隨テ生シ天理ノ變更ヲ知ラスシ
テ尙古ヲ貴ヒ門閥ヲ立テ舊記ヲ重ンシ我國ヲ第一
トシテ他國ヲ貶メ已レニ勝ル事ヲ知ルト云ヘ凡敢
テ之ヲ習フ事ヲセス機械粗ニシテ無益ノ人力ヲ勞
スル事明者ヨリ之ヲ見レハ惑フハ猶惑ヲ知ラサル

二等シ一例ヲ舉テ申サハ木下某ハ由縁アリテ久シク朝鮮ニ寄留致セシカ秋ノ頃口村民ノ修農スルヲ見ルニ右ノ手ニ割竹ヲ持テ左ノ手ニ稻ヲ十本斗リ握テソノ竹ニ狹ミテ粃ヲ漕グコト所々悉ク如是ナル故ニアマリ堪カタク思ヒ酋長タル者ニ對シテ千把漕ノ法ヲ教ント語テ申スニハ日本杯ニハ千把漕ト申ス物アリテ鐵ニテモ竹ニテモ尖リタル串ヲ齒組ニシテ筒様ナル仕掛ニシテ前ニスヘ置キ兩方ノ手一杯ニ稻ヲ握リ夫ニ打掛テ漕クトキハバラニニ

ト粃カ落テ其仕業ノ速ナル事ハ割竹ヲ持テ片手ニテ漕ヨリモ凡ソ十倍ナラン程ニ早ク此機械ヲ拵テ國中ニ弘メ玉ヘト申セハ酋長申スニハイヤ此國ハ昔ヨリ割竹ニテ稻ヲ漕ニ調度ヨキ程ニ秋ノ仕舞カ附キマス故ニヤハリ仕馴レタル事ノ方カ村民ノ勝手カ善ク御座ルト云フ故ニ木下申スニハ夫テモ十人ノ仕業ヲ一人テスル程ノ道具ナレハ之ヲ拵テ人勞ヲ助ケ玉ヘト申セハ酋長甚々頑固ニシテ新器ヲ用フル事ヲ嫌ヒ笑テ申スニハ左様ナ物ヲ拵テ稻ヲ

漕クナラハ此國ニハ澤山ニ空手カ出來テ却テ遊惰
ノ本ニナリマセウト國中ノ情態大概如斯ト云云日
本ニハ最早數年來千把漕ヤ千石通シテ用ヒ來ル故
ニ各方ハ斯ルハナシテ聞テサテハ朝鮮人ハ頑固ナ
リ陋習ナリト思ハレウカ既ニ御一新ノ始ニ於テハ
在席ノ各方モ蒸氣船ノ煙ヲ嫌ヒ洋服ヲ貶メ電信機
ヲ疑ヒ寫眞鏡ヲ怪ミ英佛ノ兵式ヲ嘲リシキ西洋人
之ヲ聞テ大ニ日本ヲ輕侮スル事モ又復如斯ナラン
之ニ依テ今般舊來ノ陋習ヲ破リ維新ノ良政ヲ建玉

フ事ハ破屋ヲ改テ新宅ヲ結構スルカ如シ各早ク大
活眼ヲ開テカ、ル新宅ニ安住シテ知識ヲ擴充シテ
自由ノ理ニ達シ各自ノ職業ヲ盛ニシテ機械富ミ兵
隊備リテ互市場大ニ開ケ信義ヲ厚フシテ有無通販
スル事都テ正理ニ順シテ公明ヲ行ヒ一心奉天ノ精
忠ヲ專ラトシテ終ニ固有ノ靈德ヲ研キ出スルハ之
ヲ皇國ノ文明ト名クルナリ彼西洋諸國ノ文明ノ如
キハ一視同仁四海兄弟ヲ以テ精神トシ上下同權ノ
智德ヲ擴メテ各國相和同シテ竟ニハ兵備軍艦モ亦

益ナキカ如クナルニ至ラント欲スト云ヘトモ地理
人情ノ等シカラサルカ如ク信法モ亦豈天下悉ク一
般ナル事ヲ得ヘケンヤ若夫一般ナラサレハ其信ト
不信ト相敵スル事寇讎ヨリモ甚シ來世ノ天獄末日
ノ審判番ニ別アルノミニ非ス今世ニ於テ既ニ倫ヲ
絶ク親ヲ離スル事現量ニ於テ知ルヘシ彼十字軍ノ
如キハ元宗教ノ熱心ヨリ起テ二百年ノ久ヲ經テ尙
和同スル事難シ西洋紀元千五百二十年ル一ザ氏始
テ新說ヲ唱シヨリ以降新舊ニ教相爭フ事少カラス

一宗別派猶相軌ル况ヤ水火相反ノ宗教ニ於テヤ數
千年ノ後ヲ俟ツト雖モ滿天下只一教一信ナル事ヲ
得ヘカラス之ニ依テ惟希クハ知識ヲ廣ク世界ニ求
メ外形快適ノ機械ヲ採用シ信義ヲ遠ク萬國ニ通シ
テ以我文明ヲ上進シテ國威ヲ海外ニ輝カサシム事ヲ
要スルノミ之ヲ和シテ同セスト云フ我宗教ニ嚴ク
他宗ヲ謗リ諸神諸佛ヲ輕蔑スルヲ禁スルハ自法
愛染故毀訾他人法雖持戒行人不免地獄苦ノ經文ニ
原ツク只其出離得脫ノ道ニ於テハ本末以テ宗ヲ成

立シ縁無縁以テ信疑ノ際ヲ判スルノミ然リト雖也
世間道ニ於テハ專ラ皇國託生ノ一縁ニ藉テ共ニ敬
神ノ誠意ヲ貫キ一心奉天ノ精忠ヲ拔ンテ倫ヲ結ン
テ相親ミ終ニ遠ク海外ニ及ンテ信義ヲ通シ安危ヲ
同フス之ヲ名テ俗諦門ト云是此ノ俗諦門ノ原因ハ
平等大悲ノ波瀾觸光柔軟ノ和徳ヨリ縁起スルモノ
ナリ只恨クハ未徒不學ノ僧侶眞如縁起ノ理ニ達セ
ス自法ニ愛染シテ却テ我ニ守ル所ノ信行ナシ豈他
ニ教テ信ヲ生セシムルコトアラシヤ又邊境未開ノ門

徒天理ノ變更ヲシラスシテ萬國交際ノ朝旨ヲ疑ヒ
テ開化文明ノ公道ヲ塞壓スルコト誠ニ慨嘆ス可ノミ
大論ノ中ニ迷界ト悟界トヲ喩フルニ一人ノ修行者
カ日暮ニ及ヒ宿ヲカレトモ所口ノ習ヒトシテ孤客
ニハ宿ヲカサヌカクテ其村ノ山寺ニ一ツノ空堂ア
ルヲ聞テ夫ヨリ山寺ニ參リ其空堂ニ一宿ヲ乞ヘハ
和尚ノ申スニアノ堂ハ昔ヨリ云傳ヘテ夜ニナレハ
鬼カ出ルト云フ夫テモ厭ナクハ一宿ハ勝手次第ト
申セハ修行者ノコトナレハ鬼位ハ恐レナシトテ其堂

ニ參リテ荷物ヲ卸シテ休ミ戸ヲセキテ臥タレトモ
何ヤラサミシク底キミ惡クシテ寐入ラレヌ所ニ又
一人ノ修行者アリテ同ク宿ニカリハクレテ夜ニ入
リユノ山寺ニ參リ彼ノ空堂ニ一宿ヲ乞ヘハ和尚又
前辨ノ如クオニ出テ苦カラスハ宿セラレヨト申ス
トコレモ亦修行者ノコナレハオニ位ハ恐レナシト
申テ空堂ニ至ルニ前ノ堂内ノ人其跡ヨリ來ル人ノ
足音ヲキ、テオニカ來タト心得テ堂ノ戸ヲ明ケラ
レヌヤウニ内ヨリ押ヘテ居ル後ヨリ來リタル修行

者カ堂ノ戸ヲ明ントスレハ内ヨリ立附ル故ニサテ
ハ堂内ニハ最早鬼カ出テ居ルト心得其オニヲ取ヒ
シカント類ニ戸ヲ押明ル内ヨリハオニガ這入テハ
一大事ト力ヲ限リニ戸ヲ押立ル雙方ノリキミニテ
トフト其戸ヲセリ放スト互ニオニト思ヒ命ヲ限リ
ニ相戦ヒ上ニナリ下ニナリ攪ミ合テ勝負カ附カヌ
故終ニ夜明ニナルト東方ヨリ指昇ル朝日ノ明リニ
テ互ニ顔ヲ見合スレハ本國ヨリ一所ニ出タル共同
行ノ修行者テアリタトアル今モ亦其如ク頑固陋習

ノ闇ヤミテハ外國人ヲ敵ノ様ニ思ヒ彼カ上陸ヲ嫌
ヒ交易ヲイヤカリ機械衣服モ洋風ヲ貶メ異國ヲ犬
羊ノ様ニ思タハ文明開化ノ明リカナカツタ故也依
之御一新已來公明正大ノ活眼ヲ開キ信義ヲ以交際
ヲ結ヘハ彼レ犬羊ニ非ス鬼ニ非ス同ク天下一般ノ
人民ナレハ人ヨリ之ヲ見レハ自國他國ヲ別ツ天ヨ
リ之ヲ見レハ一ノ盤上ニ基石ヲ連子タルカ如シ等
ク是人ナレハ友誼ヲ以廣ク交ルキハ安危ヲ共ニシ
禮義ヲ正シテ互ニ其幸福ヲ得ルヲ疑アル可ラス

皇政一新

大祖神武天皇既ニ天下ヲ平定シ國造ヲ封建シテ土
地人民悉ク之ヲ朝廷ニ歸シ列聖承襲マシニテ天
祖ヲ敬シ天胤ヲ奉シ王化ヲ維時シテ以テ今日ニ至
ル事ハ皇國確然ノ國體タリト云ヘトモ時ニ盛衰治
亂ノ變アリテ或ハ大臣權ヲ握テ私門ヲ經營シ或ハ
武門權ヲ專ラニシテ封建ノ勢ヲナシテ風教區ニニ
流レ土地人民漸ク分裂シテ各趣向スル所ヲ異ニス
然ルニ從前ノ如キハ獨立不羈ニシテ交リテ外國ニ

接セサルカ故ニ封建ノ制ニヨリテ天下又大ニ治マ
ルト云ヘトモ昇平已ニ久キトキハ倦怠隨テ生シ民
心遂ニ分裂シテ將軍アルコトヲ知テ天子アルコト
ヲ知ラサルニ至ル今ヤ萬國交際ノ盛時ニ於テ若土
地人民ヲ統一スルニ非ンハ弱國ノ弱政タルヲ免レ
ス之ニ依テ去ル卯年舊幕府時勢ヲ察シテ政權ヲ天
朝ニ奉還セシヨリ遂ニ封建ノ制度ヲ廢シ敢テ郡縣
ノ新政ヲ行ヒ玉フ今ヲ距ルコト七年前慶應四年辰
三月今上皇帝聖算十七歳ニシテ五箇ノ御誓文ヲ御

建アラセラレ此日本ハ固ヨリ神國ナレハ先ツ第一
ニ天地神明ニ誓ヒ古來稀ナル未曾有ノ變革ヲ行ヒ
萬民保全ノ道ヲ立ントノ深キ御仁政ナレハ公卿方
モ諸侯方モ誠ニ感銘ニ堪ヘス今日ノ急務永世ノ基
礎此ノ他ニ出ヘカラス臣等謹テ叡旨ヲ奉戴シ命千
ヲ限リニ黽勉從事シテ冀クハカ、ル震襟ヲ安シ奉
ラント御受ヲ申シテヨリ始テ皇政御一新ノ盛時ト
相成リ古制八省ノ法ニ原ヒテ三院十省ヲ列子時機
ニ隨テ制律ヲ改定シ萬機公論ニ決シテ凡百ノ新度

チ立玉フコト容易ナラサル御事ニテ天子正院ニ臨
御在シ三大臣補弼シ人才登庸ノ議官之ヲ公論ス或
ハ新ニ租稅ヲ興シ或ハ律法ヲ改定シ或ハ賞罰ヲ議
シ或ハ歲入歲出及輸出輸入或ハ貨幣製造或ハ諸港
津ヲ開閉シ或ハ驛遞運輸ノ法則ヲ定メ道路ヲ變換
シ里程ヲ釐正シ或ハ地方警邏ノ規則ヲ定メ或ハ兵
制ヲ革メ或ハ鎮臺兵營及提督府等ヲ變更シ或ハ裁
判所ノ權限ヲ定メ或ハ大陰曆ヲ廢シテ大陽曆ヲ施
行スル等ノ百般ノ御評議ヲセラル、事何レモ億兆

安撫ノ叡慮ニ候ヘハ在廷ノ君子ノ萬機ノ政一ト
シテ愛國ノ外ニ出ルコトナシ之ニ依テ其朝議ト申ス
ハ忝クモ神明ニ誓チ立玉フ所ノ震襟ヲ伏承シテ天
ノ正理ニ順シ行末萬民ノ爲ニナル様ニ又外萬國ノ
公法ニ背カヌ様何レノ國ニ聞ヘテモ日本ノ政ノ上
ニ無理ノナキ様又億兆一視ノ御仁政ナレハ左祖偏
頗ニナラヌ様又内皇國ノ國體ヲ失ハス天祖ノ德澤
ヲ益ニ輝ス様ニト議骨ヲ定テ會議ヲ起シ御評決ニ
ナレハ奏書ヲ認メ議官之ニ連印シ内史之ニ記名シ

テ是ヲ大政大臣ニ出ス大政大臣之ヲ鈐印シテ御批
允裁ヲ受ケ直ニ之ヲ君命トシテ外史ニ付シテ其省
ニヨリ全國ニ布告セシム夫如是ノ洪大深重ナル
御布告ノ條ニテ御文面ナシテ讀メ又位ノ各方カ動モ
スレハ巷議シテアレカ御無理シヤユレカ氣ニ入ラ
ヌ杯申サルハ偏境遐陬ニ在リテ文明ノ公道ニ達
セス時勢ノ變更ヲ知ラサルカ故ナレハ若新度ノ御
布告ニ於テ勝手ニ合ハヌ事アルトキハ我身ヲ省ミ
テ頑魯ニシテ朝旨ノ所在ヲ知ラサルカ故カ又ハ理

非ハヨク別リタレトモ陋習ニ泥ミテ意口開ケヌ故
ト幾度モニコモ我心ヲ相改テ確然ト定リタル御制
度ヲ遵守致サテハナラヌ去ル所ニ一人ノ娘然ルヘ
キ家ニ嫁入テ致シケルカ婿トハ至極中モ善ケレト
モ兎角姑メカ無理ヲ云テ朝夕口論カ興ル故トテモ
辛抱カ出來ヌト里步行シテ親里ヘ返ラレダソコテ
母モ氣ノ毒ニ思ヒ色ニト異見ヲ加テ申スニハ婿ナ
ヘ不足ニナクハ姑ノ無理ハ世ノ習ヒト明ラメテ辛
抱致セト云ヘハ娘ノ申スニハ私モ一度ヤ二度ノ事

ナラハ堪忍シテ居マセウケレトモ何分アノ様ニ毎
日ミミイダラレテハヒタスラ幸抱カ出来マセヌト
申シテ居ル内ニ一人ノ大工新障子ヲ二枚持來テ一
間ニ立附ルヲ見レハ鋸ニテ障子ノ縁ヲジヨキミミ
ト挽切り又荒鉋ヲ掛テ削リテ敷居ニハメルニ一向
ハマラ子ハ又カンナヲ掛テハ削リ何分立兼ルト荐
リニ障子ノ上ヲ削リ又下ヲ削ルコト毎度ニ及フ故
娘ハ之ヲ見テ堪カタク思ヒ申スニハ其様ニ障子斗
リヲ削ラストモ一返位ハ敷居カ鴨居ノ方ヲ削テハ

イカ、デ御座ルト申シタレハ大工カ云ハル、ニハ
夫ガ素人ト申スモノユノ敷居ト鴨居ハ此家ニ元ヨ
リ寸法ノ定リテアルモノソノ元ヨリキマリノ付タ
敷居鴨居ニ跡ヨリ障子カ來テハマルノ千ヤ故ニ五
返テモ十返テモハマル迄ハ障子ノ方ヲ削ラ子ハ十
ラヌト申セハ娘是ヲ聞テ忽チ我身ノ上ノ事ニ氣カ
付テ成程私モ縁ニ付タル向フノ家ハ固ヨリ家風カ
キマリテ有ル夫ニ跡ヨリ私カ嫁入ヲシテ是非其家
風ニハマラ子ハナラヌ身ナレハ何邊口論カ起テモ

姑ニハ過ラセラレヌイツモココモ私カ過リテ心ニ
鉤ヲ掛サヘスレハ遂ニハハマルニ違ヒナイト能キ
所ニ氣カ付テ母ニ向テ申ス様ハ最早私モ勘考カ付
マシタ故縁家ニ歸テ辛抱致シマシヨウト申ス所ニ
縁家ヨリ迎人カ來リシ故再ヒ歸ラレタルカ其後ハ
姑ト口論ノ起ル度ニニ新障子ノ事ヲ思ヒ出シテハ
我心ニカンナチカケテハ過マリ其アヤマル事毎ニ
ニ及ヘハ人ニ鬼ハナヒト世間ノ諺ノ通りニ追ニニ
姑モ殊ノ外嫁ヲ可愛カル様ニナリテ終ニ其家ニ永

久ノ有附チセラレタトアル今モ亦其如ク今般御一
新ノ制度ハ萬民保全ノ道ニシテ固ヨリ確定シテ時
機ニ合セテ經綸セラレテアレハ若我心ニ合ハヌ所
カアルナラハ御制度ニ鉤ハ掛ケラレヌ程ニ幾度モ
ココモ我心ニカンナチ掛ケテ頑固チ削リ陋習チ去
ルトキハ終ニハ文明開化ノ新屋ニ安住シテ其身安
樂ノ場ニ至ルヘシ

役心役形

夫天地萬物ノ化生スルヤ人畜性チ異ニシ山獸海鱗

生活ノ食用同シカラス行歩屈伸形ニ依テ類ヲ別チ
テ毛羽鱗甲ノ自由ヲ得ル事ハ皆天然ノ性質ナレハ
學テ之ヲ作スニ非ス教ニ依テ發スルニ非ス故ニ格
物致知ノ攀緣ヲ勞セスシテ蜘蛛網ヲ張り燕子ノ能
ク巢ヲ營ム事是只役形ノ位ニシテ彼心ニ依ラス人
只色食ノ情アリテ飢ル時ハ血ヲ飲毛ヲ食ヒ淫情起
ル片ハ輒チ相犯シ暑ニ當テハ水澤ニ棲ミ寒ニ逢テ
ハ土穴ニ入り帳幕ヲ以テ雨露ヲ凌キ水草ヲ逐テ轉
居シ只漁獵ヲ業トシテ徒ニ無益ノ人力ヲ勞スルカ

如キハ役形ノミニシテ役心ナキカ故ニ之ヲ野蠻ト
云ヒ又禽獸ト名ク是ニ由テ人タルモノハ智思ヲ運
ラシ勞事ヲ忍ヒ遂ニ天地間ノ大理ヲ窮メ大ニ知識
ヲ開クトキハ機器ヲ創造シ書籍ヲ著シ蠻荒野鄙ノ
俗ヲ免テ開化文明ノ盛名ヲ發スルナリ英國版圖内
ノ工業昌盛ニシテ貨財生殖スル其根元ハ國人ニ役
心役形ノ職業ニ勉強スル精神アツテ新工ノ機器ヲ
發明スルニ由テ終ニ世界中ノ工業ヲシテ活潑盛大
ナラシムルニ至ル玻璃ノ室中ニ光ヲ入レ寒氣ヲ外

二鎖スモノ又衝氣ノ街衢ヲ照スモノ汽車ノ迅速ナル事ハ飛鳥モ及ハス蒸氣船ノ如キハ無風ノ大洋ヲ航シ又逆風逆潮ヲモ厭ス煉化石造ノ美屋ヲ構ヘ五層七層ノ樓上ニ自在ニ水ヲ揚ケ又一步ヲ勞セスシテ昇降シ數階ヲ隔テ、談話スル電信機ノ巧器數百里ノ書信ヲ一瞬間ニ傳ヘ確車ヲ以テ蠶繭ノ生糸ヲ製シ輕氣球ハ遙空ニ飛揚シテ人跡ノ至ラサル高山ヲ測量シ其外民生必需ノ器用及便利快適ノ具ヲ造リ出セル事ミナ恒心久耐ノ役心ノ力ナリ西人ノ論

義都テ人ニ才智ノ齊シカラサルハ大抵ハ心思ヲ用ユルコトヲ幼稚ヨリ習ヒ養ト習養ハサルニ關係スルナリ之ニ由テ刀查阿克來ハ多年ノ間タ心思ヲ役シテ紡綿機ヲ造リ比耳ハ印花機ヲ造リ維廉李ハ織襪機ヲ製シ費布士ハ下水鐘ヲ造テ海底沈没ノ貨物ヲ引上シム又瓦德ハ牛國民ノ造レル蒸氣機器ノ雛形ニ依テ三十年ノ心思ヲ役シテ終ニ蒸氣縮密機器ヲ製造ス此ノ蒸氣機器ノ百般ノ用トナル事ハ其後智工アル人相續テ工夫ヲ運ラシ機器ヲ改變シ巧妙

ナ盡シ便利ヲ極メ遂ニ工作場ニ於テ百般必用ノ具
トナレリ或ハ之ヲ用ヒテ器機ヲ轉動シ或ハ船艦ヲ
推進メ或ハ百穀ヲ粉末ニシ或ハ書籍ヲ印刷シ或ハ
貨幣ヲ製造シ或ハ鐵ヲ鎚鍛シ削平ス中ニ於テ最モ
大功ヲ爲スモノ方今ノ蒸氣車ニ用ユル行動機器ハ
托列未集ト士提反孫父子ノ工夫十五年ノ力ニ依テ
邦國ノ形象丕然トシテ一變シ民生ノ便利世道ノ文
運大ニ上進スルヲ得タリ然ルニ野蠻ノ如キハ只情
慾ヲ放ニシテ心思ヲ役セザルカ故ニ未タ航海ノ術

ヲ知ラス家屋ヲ營造スル事ヲ知ラス四民ノ職業ヲ
開カス而モ進歩スルニ依テ粒食ヲ知リ陶器ヲ
造リ鑛山ノ道及航海ノ術既ニ開ケテ船艦ノ自由動
止轉用ノ人工ヲ盡スト云ヘトモ半ハ天工ヲ假ラサ
レハ運轉ノ自在ヲ得ル能ハス逆風逆潮ニハ港口ニ
碇泊シテ徒ニ光陰ヲ費ス等ノ事少カラス是全ク其
心思ヲ役スル事ノ精ナラス又久耐ナラザルニ依テ
未タ見聞外ニ在ル所ノ天理ト空氣トヲ知ラザルカ
故ナリ今ヤ舊來ノ遊惰ヲ驚カシテ維新ノ良政ヲ闢

キ彼國多年ノ役心ヲ年ナラスシテ之ヲ學ヒ且折衷
シテ一等ヲ進ミ終ニ開化文明ノ上等ニ至テ萬國卓
絶ノ國威ヲ海外ニ輝サントスルノ盛時ニ於テ誰カ
豈心思ヲ役セサランヤ農學商學ト云ヘ凡大ニ思慮
ヲ運ラス片ハ十人ノ業ヲ一人ニテ作シ十年ノ利ヲ
一年ニ得テ產物製物ノ精妙ヲ盡スニ至テハ此國大
ニ富國トナリテ神明ノ冥慮ニ叶ヒ皇國受生ノ本意
此上ハアムヘカラス孟子ニ古語ヲ引テ人ヲ治ルモ
ノハ心ヲ勞シ人ニ治メラル、者ハ力ヲ勞スルハ天

下ノ通義ナリト云ハ天皇ノ民ヲ治ムル事天下ヲ範
圍シテ一身トス心王能ク手足ヲ役スルノ謂ニテ天
皇ノ群臣ヲ體シ庶民ヲ保ンスルコトハ腹心ノ手足
ヲ視ルカ如シ殊ニ皇國ハ天祖ノ仁德ヲ承襲シテ歷
代ノ天皇國民ノ爲ニ夙夜ニ叡慮ヲ惱シ萬民ヲ我子
ノ如ク愛シ玉フコト一方ナラス御詠ニ高キ屋ニ登
テ見レハ煙立ツ民ノカマトモ賑ヒニケリ又雨ニウ
キ風ニ碎ル心カナ民ノシワサノタ、安カレト又我
爲ニ何ヲ祈ラン朝ナニミ民安カレト思フハカリソ

又御親翰ニハ天下億兆一人モ其所ヲ得ルハコ
レ朕カ罪ナリト誠ニ今般御一新ノ時節ニ當テハ内
億兆ヲ保安シ外萬國ニ對峙セント夙夜ニ叡慮ヲ勞
シ玉ヘハ在廷ノ君子人材ノ官員死ヲ誓ヒ黽勉從事
シテカ、ル震襟ヲ安シ奉ンカ爲ニ孜ニトシテ知識
ヲ開キ百方ヲ盡シ萬術ヲ究メテ以萬民安樂ノ道ヲ
立ルノ時ニ於テハ庶民一般形ヲ役シテ公務ヲ勉メ
兵法月ニニ熟練シ稼業日ニニ勉勵シ朝ニハ露ヲ拂
ヒ夕ニハ星ヲ戴テ春ハ芸リ秋ハ耕シ曠野ヲ開拓シ

桑麻ヲ蕃殖シ養蠶紡績力メテ時ヲ失ハス陶工織錦
日ニニ製物ヲ増加シ互市通販運輸怠ナク各自ノ職
業ヲ勵ミテ具ニ租稅ヲ納メ速ニ賦役ヲ務ルコト
恰モ耳目鼻口及手足ノ心王ノ爲ニ役セラル、カ如
シカノ竹田機^ハ心木一本ノ仕掛ト云フ故ニ其心
木ヲキリ、ト回ラセハ米屋ノ親父ハ米ヲツキ扇子
屋ハ扇子ヲバチ、、吳服屋ハ算露盤ヲカチ、、鳴
ラス如是人形ノ能クハタラクノハ皆心木ノクルハ
又故キヤ今田畑ヲ作りテ自由ニハタラクキ商方ヲ致

テ利益ヲ得工業ヲ勵テ生活ヲナシ練兵航海ノ備ヘ
ヨリ人力車ヲ牽ニ至ル迄皆悉ク億兆一視ノ天德ノ
然ラシムル所ナリ若此心木ニ狂ヒカ付ト萬民各其
所ヲ失フテ終ニ塗炭ノ苦ニ沈マテハナラヌ今辱ク
モ萬民保全ノ道ヲ立テ、官武一途庶民ニ至ルマテ
各其志ヲ遂ケ自主自由ノ權ヲ許シ玉フニ就テハ叡
慮ヲ勞シ玉フコト一方ナラサレハ末ニ至ルマテ
カ、ル震襟ヲ安シ奉ランガ爲勤王報國ノ忠意ヲ抽
テ、朝旨ノ件ニ堅ク相守リ日夜ニ職業勉強シ租稅

ヲ納メテ公用ニ充テ賦役ヲ務メテ公事ヲ行ヒ國ヲ
富シ兵ヲ利シ皇威ヲ海外ニ輝スニ至テコソ億兆安
撫ノ御叡慮モ爰ニ於テカ御満足シ玉フナラン

律法沿革

律法ハ司法省ノ刑法ナリ沿革ハ古律前定ノ大體ニ
沿テ新律ヲ改正スルナリ新律綱領改定律例及監獄
則等ヲ開テ見ル可シサテコノ律法ハ古今ニ亘リ萬
國ニ通シテ暫モ廢弛スルキハ放辟邪恣競ヒ起テ人
道日ニニ塞カル是全ク人ヲシテ惡ヲ懲シテ善道ニ

趣カシムルノ顯界治法ノ大典ナリ時ニ隨テ宜チ制
セスンハ有ヘカラス神代卷ニ曰ク逆命ノ者チハ斬
戮チ加ヘ歸順ノ者チハ褒美チ加フカノ素盞鳴尊ノ
罪惡チ犯シテ千座ノ置戸チ以テ罪チ贖フハ今ノ律
法ノ贖金チ科スルノ濫觴ナリ又拔爪拔髮等ノ罰チ
受ルハ今ノ杖罪答罪等ノ始マリナリ竟ニ逐降テ底
根ノ國ニ適スルハ卽流罪ニ處セラレナリ然レハ
卽コノ刑戮ノ法ハ既ニ神代ヨリ備ハル其刑戮ノ本
意ハ惡チ懲ラシテ善ニ歸セシムルニアリ依之素盞

鳴尊後遂ニ先非チ悔ヒテ清心ニナリ玉ヘハ初ノ青
山變枯カ后ニハ枯山變青トナル今此古法チ體シテ
新法十四律チ制シテ有司官員ヨリ始テ匹夫匹婦ニ
至ルマテ罪ノ輕重チ正シ刑ノ大小チ制シ或ハ死罪
ニキハマレルチ贖金ニヨリテ助命シ或ハ禁獄チ徒
罪ニ替ル等ハ人皆萬物ノ靈ニシテソノ性必ス禽獸
ニ異ナル明德チ具スルト云ヘトモ情慾ノ私有テ眞
心チ昧マシ正理ニ背キ朝旨ニ戾ルユヘニ遂ニ刑戮
ニ係ル爰チ以テ今般格別ノ御仁政チ垂レ玉マヒ人

命ヲ重シテ懲役場ヲ設ケテ鐵鎖ノ重キヲ帶ハシメ
日ニ懲役ヲ務ルウチニ遂ニ先非ヲ悔ヒテ本心ニ
立歸ルトキハ懲役ヲ卒ルノ后ハ又復元ノ天下一般
ノ平民トナリテ自主自由ノ權ヲ許シ玉フノ朝旨ナ
レハユソ東京ニ於テハ懲役場ノ休日ノ内毎月三日
宛佃島へ教導職ヲ指向ケラレ懇ニ説諭シテ改惡
歸善ノ朝旨ノ所在ヲ知ラシムルハ誠ニ有難キ御仁
政ニアラスヤ然ハ各佃島ノ罪人ニ先ヲトラレテハ
スマヌ程ニヨクニ説教ヲ聽聞シテ一日モ早ク文明

ノ御旨趣ヲ仰カスンハ誠ニ寶ノ山ニ入テ手ヲ空ク
シテ歸ランニ似タル者ナリ拙者昨年福岡縣ノ百姓
一揆ノ時黨民説諭ノ爲ニ派出致シタルニ飯塚ノ明
正寺ニ於テハ寺ノ後口ニ舊知事公ノ御茶屋有リ此
節糺彈捕縛中ノ事ナレハ右ノ御茶屋ニ於テハ賊民
ヲヒドキ責ヲ致スニ其泣キ聲カ聞ユル時拙者ハ本
堂ニ於テ諸人ヲ集メテ御法主御直諭ノ趣ヲ傳ヘテ
説得ヲ致ストキ一首ノ歌ヲ引テ諭シタルコトアリ
ソノ歌ニ父ハ呵リ母ハ抱テサトセルヲ替ルコトハ口

ト子ヤ思フラン是ハ司法省ノ刑罰ハ父ノ呵ルカ如ク御法主ノ説諭ハ母ノ抱テサトセルカ如シ然ルチ各方此度ノ算露盤責等ノハケシキ御シラベチ見テ天朝ノアマリ無慈悲ナル様ニ思ハレウカ左ニアラズサトセル母ノ教部省モ慈悲心ノアマリ呵レル父ノ司法省モ慈悲心ノ深キトコロヨリ或ハ呵リ或ハサトシテ何レ一度ハ皇國ニ生レタル人民ノ大和魂チ失ハヌヤウニ性根チ入レ善チ惡チ改メテ善ニ歸セヨトノ朝旨ナレハ假初ニモ天朝ニ對シテ不足杯

チ申ハ實ニ勿体ナキコトナリ畢竟スルトコロ此度ノ御一新ニ付テ各方ノコ、ロニ疑惑カ有ルユヘニ其惑ヨリ業チ生シテ或ハ竹鎗チ以テ障子襖チ破リ或ハ電信線チ切り或ハ區戸長ノ家チ毀チ或ハ新平民ノ家チ燒キ拂ヒ或ハ官員チ殺ス等ノ逆惡チ起スユヘニ此ノ我レカナシタル業ヨリ必ス苦チ生ス算露盤責ニ懸ルモ七十答敵カレルモ徒罪ニ處セララルモ絞リ首ニ逢モミナ自業自得ニシテ人チ怨ルニアラス皆我業ヨリ我カ苦チ受ルト思ハ子ハナラヌ

天照大神皇孫ヲ此葦原ノ中ツ國ノ主トセント思召
ニ其時此日本ヲ大己貴尊カ管轄シテ御座ラセラレ
タソコテ此大己貴尊ニ此國ヲ速ニ皇孫ニ渡サレル
様ニト談判ノ爲諸ノ神ト御評議ノ上第三番目ニ天
稚彦ト云テ御使者ニ立ラル、其時高皇產靈尊天稚
彦ニ天ノカゴ弓ト天ノ羽ニ失テ賜ハリテ使ハサレ
タ其時大己貴尊ノ娘下照姫ト云テ下サルト天稚彦
モ妻ノ愛ニ溺レテ忠義ヲ忘レ吾モ亦大己貴ニ隨フ
テ此日本ヲ治メント遂ニ八年ヲ經レドモ報命セス

此時ニ天ニ於テハ高皇產靈尊ヲ始メ天稚彦カ久布
ク返ラサルヲ怪ミ探索ノ爲ニ无名雉ヲ使ハスソコ
テ无名雉天下リテ天稚彦カ門前ノ桂ノ木ニ羽ガヒ
ヲ休メ事ノ様子ヲ伺フテ居タルニ探女コノ鳥ヲ見
テ大ニ怪ミ家ニ入テ天稚彦ニ告クル天稚彦預テ心
ロニ一物アレハ大イニ胸サワキ致シ忽チ天ノ鹿兒
弓ト天ノ羽ニ矢ヲ取テ子ヲヒチスマシ雉ヲ射ルニ
其矢キシノ胸ヲ射トオシテツウツト天ニ上リテ高
皇產靈尊ノ前ニ至時ニ高皇產靈尊其矢ヲ取リテハ

テアヤシヤナ此矢ハ昔我天稚彦ニ賜シ矢ナリ而モ
此矢サキニ血ノ付タルハ心得ス是ハ定テ國津神ト
相戦ヒアルヤ何ハトモアレ黒心アルモノニ此矢ハ
中ルヘシト其儘矢ヲナケナロシ玉フト其矢忽ニ下
リテ寢所ニ至リ天稚彦カ胸先ニ中ル天稚彦ハ寢込
ニ胸板ヲ射ヌカレ七顛八倒ト苦シミケルカ立所ニ
命終ラレタハ是又神明ノ勸善懲惡ノ教ヲ垂レ玉フ
モノニテキジヲ射タル矢カ天ニ上リタルハ惡事ヲ
ナス時ハ必ラス天ニ徹ルノ意ヲ顯シ高尊之ヲ投ケ

玉フハ善惡賞罰ノ主宰ハ神明之ヲナシ玉フコトヲ
顯ス然レモ其業ノ出ル所ハ已レニ有リ雉ヲ射タル
矢ガ復來テ吾命ヲトル汝ヨリ出タル者ハ又汝ニ歸
ルノ道理ニシテ自業自得ノ天罰遁ルノ事能ハス今
黨民ノ銘ニ刑法ニ行ハル、モ又復斯ノ如シ朝旨ニ
戻テ一揆ニ乘シ人ノ襖障子ヲ突破リタル竹鎗カ忽
チ變シテ杖トナリ答トナリテ復我尻ヲ打レテハ裸
體七十ノ泣聲ヲ發シ或ハ土藏ノ戸ヲ打破リタル斧
カ鐵ノ鎖トナリテ三年ノ重苦ヲ受ケ區戸長ノ家ヲ

毀千タル一日ノ惡業カ遂ニ報フテハ徒刑七年ノ難
行トナリ柄抄一杯ノ冷酒ハ貳圓貳拾五錢ノ高價ト
ナリテ妻子ノ衣類マテ質ニ入ル、ノ貧苦ニ及フコ
ト皆我自業ノ爲ス所ニシテ上チ怨ムヘカラス嗟呼
怖ルヘキハ因果應報ノ理ナリ慎ムヘキハ悖戾ノ罪
ナリ今世ニ於テハ王法ノ刑戮ニ處セラレ來世ニ於
テハ自然ノ三途無量ノ苦惱アリ其中ニ展轉シテ痛
ミ言ヘカラス

國法民法

今般御一新ニ就テ國法及民法ヲ改正スルコトハ容
易ナラサル事件ニシテ忝モ天皇陛下正院ニ臨御マ
シミニテ萬機ヲ總判シ三大臣是ヲ補弼シ内閣議官
ノ君子是ヲ議判シテ其得失緩急ヲ審案シ行政實際
ニ付スヘキモノハ奏書ヲ允裁シ而メ后制度條例ミ
ナ是ヲ帝國一般ニ布告シ玉フ其法ヲ立ルヤ天然ノ
正理ニ則リテ古今ヲ斟酌シ國體ヲ失ハスシテ西洋
ノ究理實踐ノ法ヲ取捨シ時ニ隨テ宜チ制シタルカ
皇國ノ國法民法ナリ此法カ能ク天下ニ行ハル、モ

ノハ三事具足スルカ故ナリ三事トハ一二ハ震襟ヲ
 伏承スルカ故二二三ハ朝議ヲ確定スルカ故二三二
 ハ正理ノ性法ニ順スルカ故二中ニ於テ國法ト民法
 トヲ別ツ所以ハ國法ハ朝廷上ニ於テ三院十省ヲ立
 テ、省ニノ司ル所ヲ定メ官位兵制秩祿租稅造幣條
 約等ノ政府ト臣民及外國トノ間ニ於テ行フ所ノ法
 ヲ立ルヲ總テ國法ト云民法トハ民間ニ於テ相互ニ
 守ルヘキ百般ノ憲法ヲ定ムルヲ民法ト云今其中ノ
 一二ヲ舉テ民法ヲ立ルノ朝旨ヲ窺フニ或ハ證券印

紙ノ規則ヲ定ムルカ如キハ朝廷上ニ關係スル事ニ
 ハアラスコレハ民ト民トノ間ニ於テ信義ヲ失ハサ
 ラシメンカ爲ナリ又青燈紅燈白燈ヲ別テ船路ノ自
 在ヲ得セシメ寺院ノ什物ヲ記載連印スルハ永ク寺
 寶物ヲシテ散失セサラシメンカ爲等ナリカ、ル民
 法ヲ立玉フモノハ萬民ヲ子ノ如ク思召ス至仁ノ御
 政道ナレハ深ク叡慮ヲ感戴シテ仰信スヘキ事ナレ
 ドモ愚民ハカ、ル洪大ナル天恩ヲモ辨ヘスシテ動
 モスレハ疑惑ヲ生シテ却テ新政ヲ忌ミ時々御布告

ノ趣ニ不足杯申スハ親ノ慈悲ヲ以テ種ニニ子ノ世
話ヲ致スヲ子ハ却テ之ヲ忌ミ不足ヲ云テ用ヒサル
カ如シ實ニ勿體ナキユトナリスヘテ君子ノ大事ヲ
天下ニ施行スル時ハ小人之ヲ見テ初ハ必ス之ヲ疑
フ其疑フ所以ンハ我知識ノ及ハサル所ナルカ故ニ
次ニハ之ヲ信スル其信スル所以ハ明者ノ説諭ニ預
ルカ故ニ後ニハ必ス之ヲ仰ク其仰ク所以ハ既ニ利
用快適ノ實地ヲ踐テ至仁ノ君恩心肝ニ徹到スルカ
故ニ一例ヲ舉テ申サハ一昨年ノ御布告ニ僧侶ノ銘

ニニ釋氏ヲ廢シテ俗姓ヲ附ケヨトノ公布アリシ時
大ニ疑惑ヲ生シ最早佛法モ危急存亡ノ大關節ナレ
ハ定テ是ハ佛ヲ廢シ僧ヲ還俗セシムルノ朝旨ナラ
ント諸宗舉テ猶預ノ心ヲ懷ケル中ニモ或ハ釋氏ヲ
改ムルヲ忌ミテ會議ヲ設ケタル事モ新聞紙ニ見ヘ
タリ爰ニ於テ我輩モ亦退テハ陋習ヲ去リ進テハ朝
旨ノ所在ヲ窺ヒ奉ルニ斯ル萬國對峙ノ盛時ニ於テ
ハ普ク日本人種ヲ統括シテ唯一般ノ人民トシ以テ
舊來抑制ノ陋習ヲ遺去セント欲スルカ故ニ四民一

同ニ苗字ヲ許シテ天下一般ノ民權ヲ施ス時ハ僧侶
豈獨印度姓ナランヤ是卽億兆一視ノ仁風ノ起原ナ
リト疑ヒ晴レテ朝旨ヲ信スト云ヘトモ未天恩ヲ感
服スルニ至ラス四姓出家同稱釋氏ノ習慣ヲ免レス
ソノ後更ニ外教許不ノ議論中ニ佛法モ亦外教ナラ
スヤノ責ハ往古ヨリ是アリト云ヘトモ經ニ我法東
漸ノ讖說アリ地ニ轉法輪處ノ眞蹟有テ日域歷代ノ
天皇佛法ノ勸善懲惡ノ道ヲ採テ以テ內教ヲ圓成シ
來ル事久シ夫既ニ採テ以テ是ヲ皇國ノ教法トスル

時ハ卽是日本教ニシテ印度教ニハアラス故ニ知ル
神裔タルノ日本人ニシテ宜ク之ヲ弘宣スヘキナリ
猶シ儀狄始テ酒ヲ製スレトモ傳來シテ和國ニ於テ
之ヲ製造スレハ卽千是日本酒ナルカ如シ爰ヲ以テ
今般僧侶ノ銘ニ苗字ヲ許シテ而後ニ皇國ノ布教
傳道ノ職ヲ掌ラシメ玉フハ偏ニユノ教法ヲシテ久
住セシメンカ爲ノ聖旨ヲ開解シテ忽千天恩心肝ニ
徹到シテ初怨望シタル事ノ恥ハツカレナ惶怖ナツロシナ爰ニ於テ誰
カ豈勤王殉國ノ忠意ヲ增長セサランヤ斯ル難有萬

民保全ノ御制度ハ僧侶苗字ノ事ノミニ非ス凡百ノ
事件皆此通りニテ初ハ愚ニシテ疑ヲ生シ腹非怨望
スト云ヘトモ追ニ説教懇諭ノ開解セシムルニ由テ
惑ヲ解キ信ヲ生ス後終ニ我身ニ其快適ノ實地ヲ踐
テ大ニ至仁ノ天恩ヲ仰クニ至ヘシ今其二三ヲ掲テ
之ヲ諭サン或ハ乞鉢廢止ノ公布ヲ見テ初ハ貧僧ノ
生活ヲ閉塞シテ僧侶ノ蟹脚カニツツヲ擘ツツカト疑ヒ次ニ文明
化開ノ時節ニ於テ醜態ヲ忌ムノ朝旨ナル事ヲ信シ
後終ニ維新ノ王化ニ沐浴シテ一視ノ仁德ヲ感戴ス

ル時ハ是偏ニ教導職タル者ハ威儀嚴重ナラサレハ
世人舉テ尊崇セス世人尊崇セサレハ所説ノ法モ亦
隨テ尊カラス之ニ依テ今般外國ノ教師ニ對シテマ
スミニ日本ノ教法ヲ盛大ナラシメント欲スルノ朝
旨ヲ仰クニ至テハ誠ニ岡極ノ皇恩真心ニ徹到スヘ
シ其外或ハ畜妻噉肉ヲ許シテ律法ノ條例ヲ省キ僧
侶ノ犯罪圓顛處刑ノ醜態ヲシテ慚カラシメ或ハ電
信機迅速ノ功力ニ依テ東京詰ノ我兒ノ無恙ヲ知テ
積累ノ憂悶ヲ去リ速ニ四方米價ノ高低ヲ知テ賣買

ノ大利ヲ得邊境遐邦ノ賊徒ノ興ル時ハ本營ノ出兵
速ニシテ庶民動搖ノ難ヲ免レ或ハ燈明臺海標ノ功
力ニ由テ海路ノ難船ヲ遁レ或ハ蒸氣車ノ功力ニ由
テ親ノ臨末ニ逢テ慇懃ニ遺訓ヲ蒙リ或ハ圓札番号
ノ功力ニ由テ紛失ノ紙幣再ヒ我手ニ入ル等ノ御仁
政ノ御慈悲カ我身ニ徹底シタル時ハ心ノ底ヨリ先
非ヲ悔ヒ過ヲ改テ皇恩ヲ仰クヘシ佛道ニテハ之ヲ
懺悔ト名ケ神道ニテハ之ヲ祓除ト名ク懺悔ハ能ク罪
ヲ滅ス朝廷豈既往ヲ咎ンヤ早ク忠意ヲ抽テ、開化

ノ域ニ進歩スベシ東京ノ如キ輦下ニ近キ人ニモ陋
習未開ノ輩ハ最初金札發行ノ時ハ大ニ朝政ヲ疑テ
申スニハ最早日本モ十三年ヲ限リトスルナリ鐵路
ヲ開造シテハ日本ノ正眞ノ金銀ヲ國外人ニ委シ蒸
氣船ヲ買ヒ船師ヲ雇ヒ其外兵備ノ機械等悉ク洋器
ヲ求メ舶來ヲ重シテ金銀終ニ滅盡スル事近キニ
在リテ日本ニ殘ルモノハ只紙斗リナラント夫ヨリ
或ハ古金銀ヲ藏シ或ハ耳白寬永ノ青錢ヲ貯ヘシ者
モマ、之アリシカ維新ノ制度漸ニ開ケ既ニ鐵路

モ落成シテ瀛車ノ速疾ナル事ハ三十分ヲスキス運
賃ノ低キ事ハ歩行ノ茶資ヨリモ少シ千萬圓ノ貨幣
モ之ヲ懷ロニシテ駄スルニ及ハス新架ノ數百橋便
利ヲ究メ煉化石造ノ美觀ハ外都ニモ減セス外國金
ノ輸入ハ年ヲ逐テ盛り日ニ王化ニ沐浴シテ終ニ
舊來ノ疑惑ヲ晴ラシ預テ貯ヘ置シ青錢等ヲ出シテ
物價ニ投與セントスレハ人皆青錢ノ重キヲ嫌フテ
強テ紙幣ヲ望ム爰ニ於テ服非怨望ノ昔ヲ悔ヒ朝旨
ヲ信シ天恩ヲ仰キ一日モ早ク我身安穩ノ樂境ニ住

シテ敬神ノ誠意ヲ貫キ共ニ赤心ノ忠節ヲ盡シテ其
身ニミニノ生涯ヲ全フスル事豈耽シカラスヤ

產物製物

夫天地アレハ萬物生ス萬物既ニ生スルトキハ聖賢
必其間ニ出テ、生活ノ道ヲ開ク人間生活ノ道タル
ヤ互市交易ヲ以テ始テ禽獸ニ異ナル樂境ニ處スル
コトヲウルソノ互市交易ノ物タルコト只產物製物
ニ在リ未タ互市利ヲウルコトヲシラス產製ノ精粗
ヲ辨セサル之ヲ蠻夷ト云追ニ二人智增長シテ鑛山

ノ道ヲ知リ航海ノ術ヲ學ンテツイニ産製ノ業ヲ營
ムニ至ルトキハ漸ク一級ヲ進テ未開ノ國トナル更
ニ進テ産製ノ業精密ニナリ山ニ産スルノ金銀銅鐵
ヲ掘テ之ヲ製造シ海ニ産スル魚鼈珠玉等ヲ採テ裝
飾ヲ爲シ更ニ山野ヲ開墾シテハ桑麻ヲ蕃殖シ海潮
ヲ關閉シテ田界ヲ擴メ陶冶奇工ヲ窮メ織縫美ヲ盡
シ家屋櫺比人民日ニ繁茂スルトキハ開化ステニ
半ヲ越ルト云ヘドモ未タ他國ト廣ク交誼ヲ結ンテ
産物製物ノ輸出スルナキトキハ吾國ニ餘レルモノ

アリテ之ヲ闢クニ怠リ之ヲ製スルニ倦ムカ故ニ自
ラ遊民少ナカラサルコトヲ得ス又吾國ニ足ラサル
モノアリテ徒ニ物價騰貴ニ及フコトアリ是ヲ以テ
今般大ニ互市交易場ヲ開テ地理ニ隨テ産物ノ精粗
ヲ博覽シ先蹤ノ妙術ヲ學テ製物ノ奇工ヲ盡シテ職
業勉勵スルトキハ國ニ遊民ナクシテ遂ニ萬國ノ貨
幣大ニ輸入シテ吾國ノ富強ナラシムコト日モ亦一日
ナルベシ然ルニ頑民ハ貿易ノ利ヲ悟解セスシテ國
産輸出ノ解禁ヲ怨望シテ曰カ、ル有難キ神國ノ膏

米ヲ外國ニ輸出スル故ニ米價騰貴シテ貧民甚タ困
乏ニ及フト是誠ニ小人ノ論ナリ然ル所以ハ吾國ノ
豐年ニハ國民常食ノ餘剩ヲ以テ輸出スルトキ米價
騰貴スル程外國ノ金ノ日本ニ入ルコト亦ソノ夥キ
コトヲ得ル然レモ愈騰貴ニ及フトキハ支那印度ノ
米穀瞬間ニ輸入シテ先ノ騰貴ナルモノ却テ低價ノ
媒トナリテ貧困モ餓死ニハ至ラス是則貿易ノ利ヲ
ル所以ナリカ、ル愚論ヲ巷議スル暇ヲ以テ我身ノ
職業ヲ勵シ中ニ於テ商方ノ拔羣ナルモノハ早ク自

由ノ權ヲ專ラニシテ或ハ上海ニ至テ開店シ或ハ倫
敦ニ渡リテ絹布綿木ノ反物店ヲ出シ又日本ノ燒物
店ヲ出シテ殊ノ外ノ繁榮ニ及テ日、ニ銀錢ヲウル
コト巨萬ニ滿ツルニ至ラハ吾國ノ豐饒豈ニ外國ニ
讓ラシヤ依之上ノ國家ヲ思召スコト一子ノ如ク憐
念シ玉ヘハコソ製術ニ精妙ヲ得タル外國ノ奇方ヲ
悉ク採用シテ人勞ヲ助ケンカ爲ニ莫大ノ金子ヲ費
シテ異邦ヨリ師範ヲ雇イ製鐵場ヲ開キ養蠶場ヲ設
ケ活字版及茶製ノ法マテ聊カニテモ民間ニ便利ナ

ルコトアレハ忽千御布告アラセラレテ産物製物ニ
於テ十人ノ勞ヲ三人ニテ作爲シ三年ノ業ヲ一年ニ
成就スルヤウニト何カラ何マテ御意ヲ附玉フコト
ナレハ各方一日モ早ク陋習ヲ去リテ朝旨ヲ仰キ怨
望ヲ過ツテ德化ヲ感戴シテ産物ヲ盛ニシ製物ヲ鍛
鍊シテ互市通販日ニニ繁昌セハ一ツハ叡慮ヲ安シ
奉リ一ツハ我身安穩ノ樂地ヲ得テ遂ニハ神明ノ御
守護ヲ蒙ルコト疑ヒアルヘカラス

制可隨時

制ハ制度ニテ天下治世ノ道ニ於テ國法及民法ノ百
般ノ事ヲキリモリヲシテ之カ規則ヲ定ムルヲ云フ
隨時トハコノ制度ハ民ヲ新ニスルノ法ナレハ四時
ノ循環スルカ如ク其ノ時機ニ應シテ宜キヲ制セス
ンハアルヘカラス春ハ草木芽ヲ生シ夏ハ枝葉繁茂
シ秋ニ入テ菓ヲ結ヒ葉落チ散リ終ニ冬藏シテ水凍
リ雪降ル如是キ天地變化ノ理ニ依テ萬物モ亦生ニ
化ニスルコトヲ得ル只春ハカリニテ秋ナキ時ハ實
ヲ収ムルコトナシ又秋斗リニシテ春ナキ時ハ草木

チ生スル時ナシ餘邪子ト云ヘル者ノ願ヒニ一生八月常月夜ト申シタルハ成程大陰曆ノ八月ハ米モ出來菓實モ熟シ暑カラス寒カラス月モ格別ニ鮮ナレハ我ニ生涯ハ夏モ冬モナクイツモ八月斗リニテ而モ闇夜ノナヒ様ニト願タルガ若コノ願ヒ通りニテラハ麥ヲ蒔ク時モナク苗代ヲ踏ム時モナシ稻ヲ種ルコトモナラス木ノ芽モ生セス枝葉モ榮ヘスシテ大ニ四時循環ノ正理ヲ失フ今各モ制可隨時ノ理ヲシラスシテイツミニマテモ舊來ノ制度ニ陋習シ交

易ヲ嫌ヒ介居チ甘シ知識ヲ開カス舊記ヲ推シ立テ機械粗ニシテ徒ラニ無益ノ人力ヲ勞スル者ハ卽チ當時ノ餘邪子ナリ中庸ニ曰生乎今之世反古之道如此者裁及其身者也ト是ハ時勢變更ノ天理ヲシラス頑固陋習ニシテ舊記ヲツノリテ皇政ニ戻リ開化セサル者ハツイニ絞斬徒答ノ裁ニ係ルヲ云フナリ何事モ時ソトオモヘ夏來テハ錦ニマサル麻ノ羽衣イカホド我カ好キタル小袖モ時ステニ夏ニナレハ之ヲ脱キテ麻ノ帷子ヲ着子ハナラヌ此ノ時機變更ノ

理ハ世間ノ上ニ於テモ時ニノ流行コトアリテ女ノ
髮ノ結ヒ風モ時代ニヨリテ替ルカ如ク或ハ帯ノ幅
カ狭フナリ或ハ又帯ノ幅カ廣フナリタツト頻リニ
廣フナリテ乳マテモ届ク様ニナル又羽織ノ短ヒカ
流行ルカトオモヘハイツノ間ニヤラ時代カ替ハリ
テ羽織カ長フナル中古女ノ領カ二本足テアリタル
カ其後二本足ニソルコトカ流行タツト京モ田舎モ
三本足カ大流行ニナリテ追ニニハ四ツ足ニモナラ
ン程ノ勢ヒテアツタ如是ク時機變革ノ理ハ天地間

ノ常勢ナレハ今般三百年來ノ遊惰ヲ策ツテ時ニ隨
テ諸制ヲ改メ玉フコトハ親ノ子ノ爲ニ新衣ヲ授ク
ルカ如シ又當世向ノ新宅ヲ結構シテ移住セシムル
カ如シ然ルチ子ハ猶舊屋ニ執着シテ之ヲ喜ハス
ハ豈親ノ慈恩ヲ知ル者ト云ヘケンヤユノ度新度ヲ
制シ玉フハ誠ニ萬民保全ノ道ヲ立玉フ至仁ノ御趣
意ナレハ誰カ豈カ、ル王化ニ沐浴シ陋習ノ垢ヲ洗
濯シテ文明開化ノ新城ニ安住セサランヤ

道不可變

今般更始維新ノ良政ヲ垂玉ヒ在廷ノ君子萬機ヲ公
論ニ決シテ舊弊ヲ革除シ百度爰ニ改ルト云ヘトモ
皇國固有ノ大道ハサラニ變スヘカラスソノ固有ノ
大道トハ何ソヤ古今不易ノ忠孝ノ道是ナリ然ルニ
コノ忠孝ノ名言ハ漢土ノ名目ニテ人皇十六代ノ時
ヨリ始マルニ似タレトモ是ハ道體カ漢土ヨリ來ル
ニハアラス只皇國固有ノ道ニ漢文字ヲ樹ヘタルモ
ノニテ若其道體ヲ論スレハ漢和同日ニ非ス彼漢土
ノ如キハ忠孝代ニニ變革ス堯崩シテ三年ノ喪終テ

舜堯ノ子ノ丹朱ニ讓テ自ラ南河ノ都ニ避タレ天
下諸候ノ朝覲訟獄堯ノ子ニ之スシテ舜ニ之ク舜崩
シテ禹又舜ノ子ノ商均ニ讓テ陽城ニ避タレ天下
ノ民又禹ニ隨フ事舜ニ隨フカ如シ父ハ周ノ民タリ
子ハ秦ニ服事シ孫ハ漢ニ事ル時ハ孫ノ事ル所ノ君
ハ子ノ敵タリ子ノ事ル所ノ君ハ父ノ寇タリ宋ノ遺
民蒙古ニ服事シ明ノ殘臣韃靼ノ粟ヲ食フカ如キハ
君臣ノ名分正シカラス大義紊ルカ故也然ルニ今
皇國ハ天神天祖基ヲ開キ教ヲ立テ古今不易ノ忠孝

ノ道義ヲ以テ政教一致ノ鴻規ヲ定メ玉フトキハ父
ハ以テ子ニ傳ヘ子ハ以テ孫ニ傳フ志ヲ繼キ事ヲ述
ルコト千百世ト云ヘトモ猶シ一日ノ如シ之ニ依テ
此ノ國ノ臣民タルモノハ假初ニモ君ヲ後口ニスル
トキハ祖先ニ對シテ不孝トナリテ忽チ大神ノ教ニ
背クカ故ニ顯界ニ於テハ斬絞杖徒ノ刑戮ニ處セラ
レ幽界ニ有テハ神明之ヲ照見シテ現罰遁ル、コト
能ハス彼ノ素盞鳴尊ハ天照大神ノ御田ヲ作り玉フ
トキ春ハ重播種子トハ一度種ヲ蒔タルニ復重子テ

種ヲ蒔テ苗ノ生立チ妨クル事ナリ又毀畔トハ畔ヲ
切り放チテ田ノ水ヲ乾スナリ秋ハ放天斑駒使伏田
中トハ田ノ中ニ駒ヲ追ヒ入テ實タル米ヲ傷ヒ破ル
ナリ又捶籤トハ或書ノ義ニ稻串ヲ拵ヘテ實リタル
稻ヲ漕キ取ル事ナリ又天照大神ノ新嘗ノ宮ニ送糞
然レトモ大神ハ只仁德ヲ守リテ更ニ憤激シ玉ハザ
リシカ或時大神機殿ニ在シテ神衣ヲ織リ玉フトキ
素盞鳴尊之ヲ見テ天斑駒ヲ剝ニハキテ糞ヲ穿チテ
投納ル、此ノ時天照大神驚玉ヒテ梭ヲ以身ヲ傷メ

シム此ニ由テ大ニ愠リ玉ヒ天ノ石窟ニ幽居玉フ夫
ヨリ八十萬神天ノ安河邊ニ會合テ色ニ御評議ヲナ
サレ遂ニ深キ謀コトニ依テ大神再ヒ石窟ヲ出玉フ
夕事ハ神代卷ニ昭晰タリ夫ヨリ諸神達カ素尊ノ罪
科ヲ行フニ千座置戸ヲ以ストハ罪ノ贖物ヲ千ヶ所
ニ置ク事也夫テモマダ贖ヒ足ラヌ故ニ髮毛ヲ拔キ
又手ノ爪ヲ拔キ又足ノ爪ヲ拔ク而シテ后ニ根ノ國
ニイ子ト追ヒ拂ヒ玉フト素尊ハ只獨リ大雨ノ降ル
時青艸ヲ以テミノ笠トシテ宿ヲ乞ヒタマヘトモ誰

以テ宿ヲ借ス者ナシ是ニ於テ素尊忽チニ先非ヲ悔
ヒテ本然ノ靈德ニ歸シ清心トナリ玉フ是即チ改惡
歸善ノ拔除ノ根本ナリ然ラハユノ素尊ハ善神ナリ
ヤ惡神ナリヤト云ニ此素尊ハ大神ノ弟神ニシテ誠
ニ善神ナリ何故ニ如此ノ惡事ヲ作り玉フヤト云ニ
是ハ今日我等ガ造ル實惡トハ同シカラス是ハ神明
ノ大悲身ヲ捨テ命ヲ棄テ、國民ノ爲ニカ、ル惡
相ヲ示視シテ勸善懲惡ノ教ヲ立テ玉フ皇國大道ノ
根本ナリユノ尊ハ金德ノ神ニシテ青山ヲ變枯トシ

テ勇氣強キ故コノ勇甚タ過ルトキハ如此ノ惡事ヲ
爲セトモ終ニ本心ニ立歸ルトキハ又枯山變青トナ
ス故ニ後竟ニ清心ニナリ玉ヒテ日本大八洲ニ杉ノ
木ヲ植ヘ楸ノ木ヲ植ヘ楠ノ木ヲ植ヘ檜ヲ植ヘ其外
八十種ノ菓樹ヲ悉ク植ヘテ今ニ於テ人ミナソノ恩
賴ヲ蒙ラサルハナシソノ初惡ヲ作リテ刑戮ニ係リ
玉フタハ今日ノ各方エ男子タル者ハ已カ勇悍ニ誇
リテ醉狂ヲ發シ或ハ人ヲ打擲シ或ハ竹鎗ヲ以テ一
揆ヲ起シ人ノ田ノ水ヲ引キ壁ヲ切り破リテ盜賊ヲ

致ス如此ノ惡事ヲナス時ハ必スソノ報ヒヲ受ケテ
或ハ算露盤責ニ逢ヒ或絞リ首ニ逢テ大苦ヲ受ケテ
ツイニハ根ノ國ニ行子ハナラヌ程ニ皆ニ早ク過チ
改メテ本然ノ靈德ヲ研キ出セトノ誠ヲ垂レ玉フタ
モノナリ又伊弉册尊ハ御柱ヲ旋リ玉フ片陽神ニ先
立テ女神ノ聲ヲ發シ玉フハ陰陽ノ理ニ背ク故ニ終
ニ蛭子ノ惡子ヲ産ミ玉フ是ハ女子ニ對シテ神明ノ
教ヲ立玉フタモノナリ男ハ陽ニシテ女ハ陰ナレハ
陰ハ陽ニ從フヲ以テ天ノ正理トスル故ニ此ノ理ニ

背テ家ノ内ニ於テ女カ出シヤバルト牝鷄ノ晨スル
 ハ其家ノ索クルナリトアリテ遂ニ神明ニ見離ナリ
 レ或ハ惡子ヲ産ミ或ハ兒ノ命千天ク或ハ家ニ災難
 起リテ遂ニ家門滅亡ニ及フ程ニ女タルモノハヨク
 ニ身ヲ慎ミ男ニ隨テ貞道ヲ守レトノ神明ノ教ヲ遺
 シ玉フカ皇國固有ノ大道ニシテ其御布告ノ令命ハ
 新ナリト云ヘトモ此道バカリハイツミニマテモ變
 スベカラス

明治七年八月
 明治十年一月廿二日
 同年二月

編輯 御届
 發兌

著者
 出版人

福岡縣平民
 兒玉寬淵
豊前國第一大区小區小倉米町千七百六十二番地
 福岡縣平民
 蜂谷進輔
豊前國第一大区小區小倉鳥町千五百七十一番地
豊前國築城郡福岡村

佐野長七

岡田英衛

弘通書肆

大坂心齋橋博愛町

